

採択拠点の拠点形成概要・採択理由

【分野名：革新的な学術分野】

機 関 名	京都薬科大学
拠点のプログラム名称	伝承からプロテオームまでの統合創薬の開拓
中核となる専攻等名	薬学研究科薬学専攻
事業推進担当者	(リーダー) 木曾良明 教授 外14名
<p>(拠点形成概要)</p> <p>本研究教育拠点は、アルツハイマー病、エイズ、マラリア、ガン、糖尿病など現在、社会的に画期的な治療法が望まれている「難治性疾患」を伝承医薬からプロテオームまでの生物分子的な視点から捉えて、新世代創薬システムを開拓し、分子認識を基盤とした世界をリードする統合創薬の科学的拠点を構築しようとするものである。本拠点は、統合創薬研究教育の拠点として、生命現象の基本である分子間相互作用を基盤とし、ある点では伝承薬にたち帰り、一方では低分子リガンドの蛋白スペースを考察して、多角的に難治性疾患治療薬の創製をめざすものである。本拠点形成計画により、既に注目される成果を挙げている本学創薬科学フロンティア研究センターの創薬研究基盤を更に発展させることができる。また、その過程を研究者のレベルで終わらせることなく、海外の共同研究への参画や外国人研究員との英語による日常的な討論など博士学生の養成を通じて、視野の広い力量ある薬学研究者を作り出そうとする教育システムを実施する。</p>	
<p>(採択理由)</p> <p><コメント></p> <p>がんやアルツハイマーなど難治性疾患に対する薬物治療は緊急課題であり、企業等において創薬が行われている。しかし、大学で研究教育を通して創薬プロジェクトを正面から取組み次世代後継者育成を進めているところは国内外で少ない。この拠点形成計画はこれまでの高い実績を基盤に、生体分子と薬物分子間相互作用の理論構築、伝承医薬見直しからの創薬と臨床開発などを統合し、国際レベルの教育研究を通じて創薬学術分野を開拓するものである。</p>	
<p><革新的な学術分野であるポイント></p> <p>生命現象の基本である分子間相互作用を基盤として、伝承医薬、プロテオーム及び分子設計の三つのアプローチにより多角的にアルツハイマー、エイズなど難治性疾患の治療薬創製を目指し、統合して実現しようとする点で、革新的な学術分野の開拓が期待できる拠点形成計画である。</p>	